

地域の飼料用米を活用した卵の生産

(愛知県：デイリーファーム)

取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
	○		○		

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 など該当するものを記入

<取組主体について>

- ・所在地 : 愛知県常滑市
- ・代表者 : 代表取締役社長 市田 眞澄
- ・飼養羽数 : 採卵鶏 成鶏約16万羽、育雛・育成鶏約5万羽
- ・雇用者数 : 100名
- ・HPなど : <https://dailyfarm.co.jp/>



卵農場施設内

<取組について>

○ 概要

- ・ISO22000 : 2005を取得し、安全で安心な卵の生産を実施。
- ・JGAP認証を取得し、食品安全、環境保全、労働安全に関する取組を実施。
- ・大きさに合わせてパック詰めをするGPセンターの機能を自社内に保有。
- ・食品の安全性の情報公開として、生産された卵がいつ出荷し、どんな飼料を給与していたかなど、卵の生産に係る全ての履歴データを保有。
- ・飼料はNon-GMOのとうもろこしや大豆を使用。そこに地域で生産された飼料用米を飼料の10%以上配合し、卵の生産を実施。
- ・飼料用米生産圃場に鶏ふんを堆肥化して施用するなど耕畜連携の取組を実施。耕種農家との交流や定期的な意見交換の場を設け、品質向上や課題の解決に向けた検討を実施。
- ・飼料用米を給与し生産された卵は、「あいちの米たまご」や「デイリー極みたまご」としてコープあいち、イオンなど大手量販店で販売。
- ・平成25年11月に六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定を受け、平成27年6月に「とれたてたまごの店 ココテラス」を開設し、自家産の卵をプリン、シュークリームなどに加工して販売。平成30年6月には国家戦略特別区域法を活用してココテラスの隣に農家レストラン「たまご農家のキッチン レシピヲ」をオープン。ココテラスとレシピヲからなる「ココテラスの丘」は幅広い年代が来店する常滑市内有数の観光施設となった。併せて、卵の直売量は直売所開設当初（平成27年）から20倍近く増加し、量販店への販売単価も大きく上昇するなど売上と利益に大きく貢献している。

○ 今後の課題

- ・令和4年2月に六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定を再度受け、ベーカリーを新設する予定。自家産の卵を利用したパンといった日常的に消費する商品を販売することで来店頻度を増やす計画。
- ・消費者との交流のため、卵や食についての学習会などに取り組む計画。

